

「平成29年度大山町地方創生事業」

外部検証委員会検証結果

大山町は、政府の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成27年10月に「大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略」（以下、総合戦略）を策定し、その計画に沿った地方創生事業を、地方創生交付金を活用しながら実施しています。

総合戦略外部検証委員会では、年度ごとに事業効果を数値目標に限らない広範囲の視点から検証を行うこととしており、今年度は、8月2日に実施しました。

平成29年度に実施した地方創生事業

業について、下記のとおり委員の方からご意見をいただいたので報告します。

この検証結果を踏まえ、30年度も継続される事業についてご指摘を参考にしながら展開していきます。

また、必要に応じて外部検証委員会を開催し、本町の地方創生事業を総合戦略の目標に即した実りあるものになりたいと考えています。

◆問い合わせ先 企画課

☎0859・54・5202

大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略外部検証委員会

(敬称略)

団体名	氏名	
大山町商工会	岸本 耕二	会長
大山町職員労働組合	池信 昌隆	副会長
大山町企業連絡会	片木 威	
西部総合事務所	笠見 和昭	
鳥取大学 地域学部	多田憲一郎	
鳥取銀行名和支店	前田 博史	
山陰合同銀行名和支店	今出 正	
新日本海新聞社	小谷 和之	
アマゾンラテルナ 鳥取大山オフィス	貝本 正紀	
大山地区三色会	荒金 恵美子	
女性団体連絡会 大山女性の会	桑原 可菜子	

平成30年度 大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略外部検証委員会 結果 (平成29年度 実施事業の検証)

番号	事業名	事業目的	事業成果	主な意見
1	大山グルメ食道推進事業	「食」のクオリティの向上・農工商連携等を行い、町内全域の食の魅力向上と経済活動活性化につなげる。	事業者のアグリフードエキスポ出展・1300年記念メニュー開発・大山町食べ歩きマップの作成 (15,000部)	<ul style="list-style-type: none"> アグリフードエキスポでは、全国のバイヤーが大山の自然薯に関心を持ち、今後の展開のきっかけづくりとなった。更に小規模事業者の参入を進める努力が必要。 食べ歩きマップの作成後が重要。町外への発信力の向上が必須。
2	大山グルメ食道飛躍編商品力向上事業	販売物のパッケージ等の改良を行い、商品価値を向上させ、地域経済の活性化を図る。	2事業者を支援 (パッケージ改良1件、ホームページ改良1件)	<ul style="list-style-type: none"> パッケージの改良は、指導に当たる高度人材が必要。
3	高度人材の招聘事業	町内産業の生産性を延ばすため、事業者に高度人材を入れ、自立できるよう、指導を行う。また、持続可能なスモールビジネスの創生にも活用する。	大山観光局に企画員を雇用。ツアーメニュー開発・検証を行った。デザイナー・ライター・翻訳者を活用し、情報案内カードによる情報発信を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 人材受け入れ後の運用、支援体制の構築が必要。 ツアーメニュー開発は、新しい企画を期待させる。 観光案内カードは全体像が見えにくい。中国語や韓国語の説明も欲しい。
4	来訪者受入体制の強化事業 総合案内所機能強化事業	大山観光案内のワンストップ化を目指し、通訳によるインバウンド対応を進める。情報発信により、観光客の流れを里へ促す。	大山案内所機能強化(環境整備)事業として、カウンター壁面改修、Wi-Fi環境の整備等を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> 通訳の強化(英語、中国語、韓国語など)が観光客への評価向上につながり、リピーター発信を拡大する。 外国語対応のIT機器の導入や案内看板の設置などが必要。
5	来訪者受入体制の強化事業 新複合商業施設の集客力強化事業	施設内整備(備品)とプロモーションやキャンペーンを行う。	複合商業施設「大山参道市場」のオープンに向けて、厨房機器などの備品を購入した。	<ul style="list-style-type: none"> 国内への情報発信不足を感じる。直近まで伝えられなかった。 大山寺地区の核施設として期待(近隣店舗とのシナジー効果) 店舗に入りやすい建物のデザイン。